

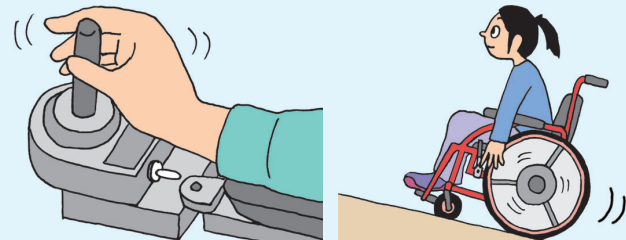
電動 車いす

市販されている多くが大人用サイズの「電動車いす」。そのため、子ども用の車いすに簡易型電動装置を取付けて使用することが多いです。行動範囲が広がります。

選び方のポイント

1 操作方法

ジョイスティックを操作して進む方法とハンドリムを軽い力で操作して進む方法（電動アシスト）があります。子どもの操作能力等に応じて選択しましょう。



ジョイスティック

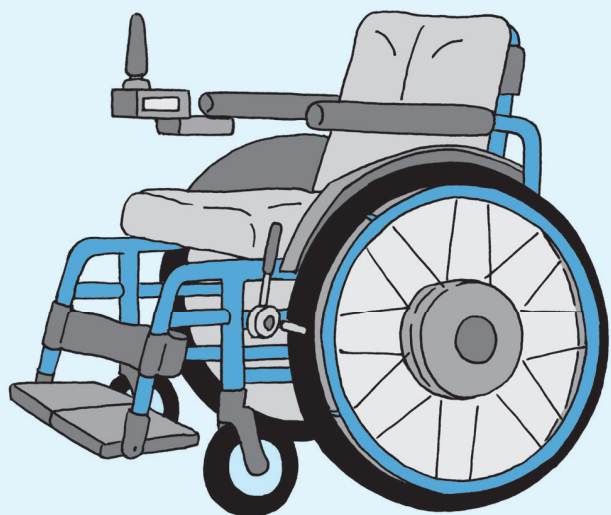
電動アシスト

2 姿勢

思った以上にスピードが出るので、少なからず子どもの体に振動が伝わります。しっかりと体を支え、姿勢が崩れないようにする配慮が重要です。

3 成長対応

子どもの成長に合わせた車いすフレームを作る場合、それまで使ってきた電動車いすのユニットを付け替えられる場合があります。車いすを作り変える前に専門家に相談しましょう。



福祉機器 Web2020

子どもの バギー・車いす 選び方のポイント

最適なバギー・車いすを選ぶためには、子どもの身体状況や使用環境、目的などさまざまなことを事前に確認する必要があります。必ず、医療や福祉の専門家と一緒に選びましょう。



手動車いすを電動車いすに変更することができるユニットです。様々なメーカーの車いすフレームに取付け可能です。操作はジョイスティックでおこないます。タイヤサイズは、16、20、22、24インチがあります。
ヤマハ発動機(株) / JWX-1Plus (ジエダブリュエックスワンプラス)



様々なメーカーの車いすフレームに取付けることで、ハンドリムを使って走行する電動車いす（電動アシスト）にすることができます。タイヤサイズは、20、22、24インチから選べます。
ヤマハ発動機(株) / JWX-2 (ジエダブリュエックスツー)



調整範囲が広く成長対応できる miniNEO の電動タイプです。ジョイスティックで操作が可能です。車体サイズが選択可能で、体型にフィットさせやすい座面・背面形状等、成長に配慮した工夫がされています。
(株)オーエックスエンジニアリング / miniNEO-E (ミニネオイー)

バギー

幼児期から小学低学年くらいの子どもが使うことが多い「バギー」。肢体不自由のある子どもの生活には欠かせない移動用具です。正式には車いすの仲間には分類されません。

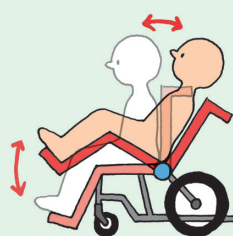
選び方のポイント

1 姿勢

背もたれ角度が一定のもの、背もたれだけが傾くリクライニング機能、座面と背もたれが同時に傾くティルト機能、リクライニング機能+ティルト機能等があります。子どもの姿勢が保ちやすいことを重視して機能を選択しましょう。



リクライニング機能



ティルト機能

2 折りたたみ

バギーは基本的に折りたたみができます。しかし、折りたたみ方法や折りたたみ後の大きさが機種によって大きく異なるので、必ず確認しましょう。

3 成長対応

子どもの成長に合わせて、座面の奥行きや背もたれ・足台の高さ等が調整できるものを選びましょう。



背もたれが少しだけ傾く機能がついたバギーです。車輪が大きめなので、介助者が片手で操作することもできます。専用の部品を使って自動車に固定すれば、子どもを乗せたまま移動できます。

テクノグリーン販売(株) / Cricket (クリケット)



ティルト機能がついたバギーです。パッドやベルトなどが面ファスナーで固定できるので、姿勢を整えるための取付け位置調整が容易です。少ない手順でコンパクトに折りたたむことができます。

(株)きさく工房 / RVPocket II e (アールブイポケットツーイー)



リクライニング機能とティルト機能がついているため、子どもをバギーに乗せたままケアができます。耐荷重 90kg と大きいことから、たくさんの荷物を載せて出かけられます。

オッターボックス・ジャパン(株) / キンパネオ

車いす

バギーに比べ、走りやすさを重視しているのが「車いす」。自走用や介助用があります。姿勢を安定させるためにパッドやテーブルを取付けることができます。

選び方のポイント

1 サイズ・仕様

成長を見越して大きなサイズを選びがちですが、現時点で快適な姿勢が保てる車いすを選ぶことが大切です。バギーと同様に、リクライニング機能やティルト機能がついたものもあります。

2 自走 or 介助

子どもが安全に車いすを操作できる場合は自走用車いす、リクライニング機能やティルト機能、ブレーキ等を介助者が操作する場合は介助用車いすを選択します。



自走用車いす



介助用車いす

3 成長対応

子どもの成長に合わせて、座面の奥行きや背もたれの高さ等がその場で調節できるものがあります。修理に出せば座面や背面の幅を広げられるものもあります。製作時に専門家に相談しましょう。



自走用の車いすです。はじめは座幅・座奥行き等を小さく製作し、子どもの成長に合わせて部品を交換することで、その時々に応じたサイズに調整ができます(モジュラー方式)。

日進医療器(株) / PILOT2 (パイロットツー)



リクライニング機能が付いている介助用の車いすです。リクライニングすると、ほぼフラットになるとともに、座面の高さが上がるので、おむつ替えなどがしやすくなっています。

(株)ミキ / NEXTROLLER_EX (ネクストローラーイーエックス)



自走用の車いすです。左右の後輪を取り外せるので、本体が折りたたみなくてもコンパクトに収納できます。フレームがしっかりしているので、軽い力で漕げます。子どもの屋内活動に適しています。

パンテラー・ジャパン(株) / Bambino (バンビーノ)